

日本が傾いている簡単な理由

○東京大学の優秀な学生たちが言うのですが、「九州大学をトップで卒業しても、東京大学の落ちこぼれには、就職活動で勝てない」そうです。福岡の学生たちは、西日本でもトップレベルの九州大学に行きたがります。しかしその九大生よりも、ずっと学力が下になってしまう東京大学の落ちこぼれたちは「情報」で就職できるのです。東京大学の学生には、就職の採用試験の模範解答がまわっています。よって、九大などの田舎の学生たちが、いくら実力をつけて満点近くの点数を取っても、東大生たちは満点の成績で採用されてしまいます。私の教え子たちが、超がつくほどの一流企業で、東大・九大などの学生たち数百人を採用試験にかけて、数名を採用したが「全員ダメだった」と言うのは、そういう事です。優秀な学生たちは合格できずに、優秀ではないけれど、情報を持っている学生たちだけが日本の中枢に進める。そういうシステムが日本ではできあがっています。

○「情報化社会」などと言われる現代は、裏を返すと「情報の格差社会」です。情報がある東京の大学生と、情報がない福岡の大学生では、どんなに学力の差、実力の差があっても、それをひっくり返すことはできません。ゆえに、「普通の学生」たちは「関東・関西などに行ったがいいぞ」と、私と同じ「受験屋」の同業者は言われます。しかし、ここちょっと待って欲しいのですね。その東京大学の中でも、優秀な学生たちが面白い事を言うのです。「そんな模範解答がまわっている一流企業、超一流企業なんて、ダメに決まっている」とね。もしも、本当の一流の職場、超一流の職場であれば、そんな模範解答は無いはずである。そして、九大や東大に通う学生たちは「普通の学生」ではない。「特別な学生」のはずである。そんな普通の就職活動をやるものではないという事ですね。私は、「普通の学生」であれば、九大に行くより6大学などに行った方が、そういう「優秀な田舎の学生を近寄せないシステム」に乗れて良いとは思っています。日本が傾いている理由は簡単です。そういう「優秀ではない学生ばかりを日本の中枢に就職させる」そういうシステムが出来上がってしまっているからです。採用する側の職場が、ちゃんとした採用試験をやるしかないでしょう。東京大学の中で「模範解答がまわっていない」そういう一流・超一流の職場を参考にするしかないでしょう。東京大学の優秀な生徒たちに言わせると、「そういう模範解答がまわっている企業に行く東大生は三流」とバツサリですね。

○田舎の大学に行くとしても、そういう「模範解答」がまわっている企業への就職は避けた方が良いでしょう。彼ら、都会の大学生などには情報量で太刀打ちできませんから。よって、田舎の大学に行くのなら、模範解答が無い職場を受ける。あるいは、模範解答が欲しいのなら、都会の大学へ行く。どちらかでしょうね。今年もすでに、久留米自習室から立命館大学の指定校推薦で一人合格しました。九州大学に行くよりは、普通の生徒たちにとっては、有利になりますから、都会の大学へ行くのには私は賛成です。ただし、そういう壁をぶち破って、「みんなが就職する先」ではなく、「自分が就職したい先」を見据えている学生には、自分の行きたい進学先が良いと思っています。そういう一部の「就職のためではなく、学問のために進学する」という生徒には、また違った指導が必要ですから。